

領域 5 インフォーマルミーティング議事録

日時：2024.09.17, 17:30-19:00

場所：北海道大学 E312

出席者：領域代表・副代表・運営委員を含む 23 名程度

配布資料：スライドを画面共有および、オンラインで閲覧可能にした。

1. 審議	2
1-1. 運営委員の紹介	2
1-2. 領域活性化について	2
1-3. 領域 5 のキーワードについて	3
1-4. 計算物理 WG の報告	3
1-5. 学生優秀発表賞の審査対象	4
1-6. 発表概要の英語化	5
1-7. 発表スライドの英語化：「推奨」とする	5
1-8. 田中領域代表からの共有事項	6
2. 案内	7
2-1. 招待講演・シンポジウム・企画講演	7
2-2. 招待講演とチュートリアル講演の区分け	7
2-3. 領域 5 広報用 X (旧 twitter) アカウントの開設	7

1. 審議

1-1. 運営委員の紹介

- 今期代表・副代表・運営委員の紹介が行われた。
- 次期代表・副代表・運営委員の紹介が行われた。
- 次期代表および次期副代表より挨拶があった。
- 次々期（2025.4～）の運営委員について下記の3名の紹介があり、物理学会に推薦することが承認された。
 - 吉岡克将（NTT 物性基礎研）
 - 藤澤唯太（広島大放射光）
 - 湯本郷（東大物性研）

1-2. 領域活性化について

- 運営委員から説明があった
 - 発表件数について
 - 長期的な減少傾向にある。
 - オンラインでは減少傾向が顕著。
 - 現地開催時は若干増加傾向だが、次回の現地開催でトレンドがわかるのではないかとの説明があった。
 - オンラインと現地開催の講演者数の振れ幅が年々増加傾向にある。
 - 上述の傾向は、他領域でもおおむね同じ。
 - 学生優秀発表賞に誤って口頭発表で応募する学生に関して。

今回は合計49件の応募の内、11件が誤って口頭発表として応募された。

このことに関して、すでに十分告知をしているためこれ以上の対策は不要との意見があった。

- 企画講演の提案
 - 今回の領域 5 からのシンポジウム件数はゼロ。
 - 領域活性化のためにも運営委員発案は半ば仕事の一部であるとの指摘があった。

1-3. 領域 5 のキーワードについて

- キーワードとして「超高速現象」を戻したところ、14 件の登録があった。
- はやりのキーワードを適宜追加するのでよいのではないかとの意見があった。
- 2023 年秋に適したキーワードがなく応物へ参加者が流れているとの意見があったため、2024 年春に今回大会で応物キーワードのリストアップ・比較を行うよう求められた。そのため、今大会では応物のキーワードの共有を行った (https://meeting.jsap.or.jp/jsapm/wp-content/uploads/2024/05/2024A_keyword.pdf)。応物は選択肢が細かく階層的になっておりわかりやすく便利だが、物理学会との簡単な比較は困難であるため、情報の共有のみで終了することにした。

1-4. 計算物理 WG の報告

計算物理 WG 担当から、準備会の提案内容が共有された。

- 現在の所、領域 5 に影響のある話はない。
- 一般講演は基本的に他領域との合同セッションとする。
- 他領域との時間等の調整は行わない。
- 試行期間中は若手奨励賞・学生優秀発表賞は授与しない。
- 計算物理と講演ごとの合同領域の両方で、若手奨励賞の数を算出するための講演数にカウントする。
- 若手奨励賞の学会全体での総数を増やす方向で進める。

1-5. 学生優秀発表賞の審査対象

- 表彰件数に関して、現在の規定「当該大会における領域5全ポスター数の5%」とされている点に関して他領域との比較と説明が行われた。
- 現状の規定では、ポスター件数が少ないと受賞者数が減り学生のエンカレッジができないという課題が説明された。
- その上で、「評点の高い順に応募者の順位を決めていき、順位に応募件数の20%（四捨五入）の学生までを受賞とする（ボーダー順位の同点者は受賞に含める）。」への規定変更が運営委員より提案された。
- また「20%」の妥当性については、すでに2018年秋に詳細な議論が行われ承諾されており、今大会以降もこの議論の結果を踏襲することにしたと説明が行われた。
 - プレミア感が薄れるのではという意見や2から3人で固定するのではダメかなど意見があった。また、他領域と比べて比率が高く領域委員会で規定の修正を求められるのではという懸念に対して、副代表より規定を確認した限り、その懸念は当たらないとの回答があった。
 - オンラインではポスター発表をゼロにして、学生優秀発表賞の審査対象を口頭にするという方針に、領域として変更しても問題ないのではないか。という意見が前回同様出された。
 - ▶ 口頭発表の審査をする場合にどのような審査体制にするかを考えるために、口頭発表の場合の学生優秀発表賞の他領域での事例が共有された。事前審査により、口頭発表を認める件数を絞る領域や、セッションごとに審査員を依頼するなどして審査負担を減らしている領域がある。
- 議論の結果、現在の規定（「当該大会における領域5全ポスター数の5%」）を「評点の高い順に応募者の順位を決めていき、順位に応募件数の20%

(四捨五入)の学生までを受賞とする(ボーダー順位の同点者は受賞に含める)。」に変更することが承認された。

1-6. 発表概要の英語化

経緯：今大会が開催される前に、JPS 執行部より、外国人会員から講演概要の英語化に関する要望が多数寄せられているとの報告があった。この報告と共に、現在の日本語 1 ページの概要を、①日本語+英語の 2 ページ、②英語のみの 1 ページという 2 つの案のいずれかで対応することを検討しているが、他の方法についても 11 月の領域委員会に向けて意見を収集したいとの案内があったため、学会開催の一週間前から領域 5 内でアンケートを実施していた。

- 発表概要の英語化に関して、事前に実施したアンケート (50 名回答) の共有があった。(結果はスライドにまとめている)
- 日本語のみがよい~33%、英語のみ~35%、日本語+英語~16%、どちらでも~16%
- 発表を行う学生からの意見が改修されていない点に関して指摘があった (50 人中 2 名)。次回以降でのアンケートでは、研究室学生にも共有をお願いするなどより広い範囲からの意見収集も検討することとした。
- アンケートの取りまとめた意見を領域委員会で報告することに決めた。

1-7. 発表スライドの英語化：「推奨」とする

経緯：スライドの英語化については、複雑な経緯がある。2023 秋の議事録には、「英語講演者のいるシンポジウムでは、原則、講演 (概要も含めて) は英語で行うことについての合意が得られた。また、以前に、スライドやポスターは原則英語にすとなっていたが、そのことが周知されておらず、領域メールやセッションの始まりなどで周知することや先生が学生に伝えることで大体の合意があった」とあり、2023 年秋以前に「原

則英語」を決定したような記述がある。しかしながら、過去の議事録を遡ってもそのような決定があったことを示す記述が無いことが2024年春に明らかとなり、その際には強制的な「原則」ではなく、「お願い」であることを暫定的に修正することとした。今大会に向けて、運営員は過去の議事録の調査と議論を続けており、「英語化を推奨」とすることをメールベースで合意して、今大会のIMで確認することとした。

- 発表スライドの英語化に関して、上記経緯が詳細に説明された。
- 「代表・副代表および運営委員から、一般講演については、スライドおよびポスターの英語化を**推奨**する」に変更する方針が正式に承認された。

1-8.田中領域代表からの共有事項

- 大会のオンライン・現地開催のアンケート結果の共有が行われた。
 - オンライン開催に参加経験のある場合、80%程度はオンライン開催に多少なりともメリットを感じている（多くのメリット：~40%、メリットとデメリット：~40%）
 - 参加費の値上げ無しの条件では、60%程度は現在の開催方式（年一回ずつオンラインと現地開催を行う）を支持しているようにみえる。
- 物理学会周年記念事業（2025年；国際量子科学技術年、2026年；日本物理学会80周年、2027年；東京数学会社150周年）に関するアナウンスがあることの情報共有が行われた。
- 講演数の占有率を現状の4.66%から4.84%まで増やせれば、若手奨励賞の受賞者は現状の2名から3名にまで増えるとの情報が共有された。

2. 案内

2-1. 招待講演・シンポジウム・企画講演

今期に開催されているシンポジウム、チュートリアル講演・招待講演の案内が行われた。

2-2. 招待講演とチュートリアル講演の区分け

- 区分分けについて前回同様説明が行われた。
- 事前に運営委員に諮るため、その期日は 10 月 21 日と決まった。

2-3. 領域 5 広報用 X (旧 twitter) アカウントの開設

- https://twitter.com/jps_r5div
- デメリットが存在しないため、今後も運用していくことが確認された。